

## 1 調査事件

コンベンション誘致対策について

## 2 調査概要

### (1) 大阪府（人口 8,819,416人）

ア 大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）について

大阪府は、「国際交流都市・大阪」の役割を担う施設として、平成12年4月にグランキューブ大阪を総合交流施設として建設した。現在の施設の指定管理者である株式会社大阪国際会議場は、職員三十数人のうち、二十五、六人の職員がコンベンション誘致を担当し、催事規模が100万円以上の催事誘致に取り組んでいる。近年は国際会議誘致の強化を進めており、誘致に強い医学系の学会を含む国際会議の開催件数の増加に取り組んでいる。

グランキューブ大阪は延床面積6万7,000平方メートル、地下3階、地上13階の施設であり、主要施設として、①特別会議場、②メインホール、③イベントホール、④会議室から構成されている。まず、①特別会議場は、大阪の祭りをモチーフにした日本画が描かれたドーム型天井を持ち、世界のVIPを迎えての会議開催に最適なホールとなっている。なお、座席は馬蹄形式やシアター形式など用途に合わせて変更可能であり、さらに、8カ国語同時通訳設備などを備えることで、国際会議が開催可能な環境を整備している。②メインホールは国際会議から各種式典、コンサートなど、さまざまな用途に対応可能なホールであり、一階席は通常シートより大きいエグゼクティブシートを採用している。また、一階席全席にA3サイズのライティングテーブルを設置している。最大収容人数は2,754人であり、ステージはエンドステージ型やフラットステージ型など自在にパターン変更が可能となっている。また、大ホールと小ホールに2分割して利用することも可能であり、8カ国語同時通訳設備や最新音響設備等を備えている。③イベントホールは広さ2,600平方メートル、天井高9.4メートルで、柱が一本もない開放的な大空間となっており、イベントの規模に応じて3分割利用まで可能となっている。なお、この会場は各種展示会や会議、レセプションなど幅広い目的で利用できる。④会議室は全25室整備されており、それぞれの部屋を組み合わせることで、10人から1,000人規模の会議やレセプション、展示会などに活用できることが大きな特徴である。最も広い会議室はおよそ1,000平方メートルの広さを持ち、大規模会議や展示会などにも利用可能となっている。さらに、

6カ国語同時通訳設備も備え、中規模の国際会議を開催可能としている。

施設の稼働状況を見ると、平成29年度の催事開催件数は1,572件（会議1,454件、展示・興行118件）であり、稼働率は全館平均で72.3パーセントとなっている。また、催事規模別に見ると、100万円未満が約8割を占めている。なお、100万円未満の催事については主催者側から利用について問い合わせがある一方、100万円以上の催事は指定管理者が誘致したことによる開催が主となっている。これらの収入等により、施設で年間約18億円の収益を得ており、そのうちの7億円は大阪府に納付金として納められている。誘致に係る課題としては、国内で開催される国際会議の4割を占める理工学系の会議誘致が弱い点や、収益が大きい民間企業の展示会の誘致に取り組んでもなかなか実績に結びつかないという点が挙げられるが、国際会議の誘致に関しては、平成30年1月から大阪大学、大阪府立大学及び大阪市立大学の大学院理工系研究科長をアドバイザーに迎え、理工学系の国際会議の誘致体制強化を図っている。今後は国際会議の誘致と収支改善による安定した経営基盤の確立を重点目標とし、取り組みを進めていくこととしている。

## (2) 名古屋国際会議場

### ア 名古屋国際会議場について

名古屋国際会議場は、名古屋市の国際交流の推進並びに産業、学術及び文化の向上に資するため、市の国際コンベンション推進を担う中核施設として建設された。なお、施設は1989年に市制100周年を記念して開催された世界デザイン博覧会のテーマ館である白鳥センチュリープラザをベースに、大規模会議に対応可能な施設の増設等により1994年10月から現在の形で全館供用開始となった。現在の施設の指定管理者であるコングレ・名古屋観光コンベンションビューローコンソーシアムでは、運営や誘致についてはコングレが主体となっており、名古屋観光コンベンションビューローからは誘致担当職員が1名派遣されている。なお、名古屋市からは大規模修繕に係る費用等の予算措置はあるが、運営については施設の収入で賄うこととなっている。

名古屋国際会議場は、延床面積7万2,165平方メートルで1号館から4号館まであり、主要施設として①センチュリーホール、②イベントホール、③白鳥ホール、④国際会議室、⑤会議室から構成されている。まず①センチュリーホールは面積が2,360平方メートル、収容員数が3,012人の大型会議のメイン会場となっており、国際会議やコンサートのほか、

吹奏楽コンクールの全国大会会場として利用されているため、吹奏楽の練習での利用者が全国から訪れることが特徴として挙げられる。②イベントホールは天井高が22メートルで、1,480人収容可能な平土間の多目的ホールであり、展示会やボクシングなどのスポーツ興行、パーティーなどさまざまな用途で利用可能となっている。③白鳥ホールは1,280人収容可能なホールであり、白鳥をイメージしたシャンデリアや同時通訳ブースが設置されている。このホールは式典やパーティーのほかに展示会も開催可能であり、幅広い利用用途がある。また、この会場は2分割での利用も可能となっている。④国際会議室は収容人数が336人で、6カ国語対応の同時通訳ブースを設置するなど、国際会議にも対応可能であり、馬蹄形式やスクール形式などレイアウトの変更も可能である。⑤会議室は合わせて25室あり、シアター形式やスクール形式など多様なレイアウト変更が可能となっており、学会や研修、打ち合わせなどに利用できる。

施設の稼働状況を見ると、平成29年度の日稼働率実績は①センチュリーホールが90パーセント以上、②イベントホール及び③白鳥ホールも70パーセントを超えるなど、大規模ホールの稼働率が高い一方、④国際会議室は約27パーセントと低くなっている。しかし、全施設の平均稼働率で見ると、全国的にも高い水準で推移している。このことは、東海地区に競合する施設がない点が要因として考えられる。また、平成29年度の催事開催件数は1,733件であり、催事の種別に見ると、コンサート・興行が急激に増加している。なお、これらの催事等で得た収益から、市に対し納付金を納めている。コンベンション誘致に関しては、指定管理者独自で予算を持ち、海外で開催されるIME X（コンベンション主催者や事業者、自治体等が参加する世界のコンベンション見本市）へ毎年参加し、名古屋市のシティープロモーションや国際会議誘致のための人脈づくりを行っている。また、東京で開催されるIME（国際MICEエキスポ）にも参加し、誘致のキーパーソンとなる方や、学会の事務局に対する誘致活動に取り組み、その結果、今後の国際会議誘致にも成功している。さらに、地域住民への還元も重要と考えており、誘致した会議等と一般向けの無料講演会を組み合わせることで、コンベンションに新しい付加価値をつける取り組みも進めている。このことにより、ネットワークを広げ、新たな会議誘致を目指している。また、小中高校生に対しての「吹奏楽練習割引制度」を新設し、センチュリーホールの利用料金の減免を行うなど、吹奏楽の普及にも力を入れ、取り組みを進めている。

### (3) 吹田市（人口 337,579人）

#### ア パナソニックスタジアム吹田について

吹田市では、これまで万博記念競技場でサッカーの試合を行っていたが、陸上競技場と兼用であり、また、建設から約40年経過したことによる施設の老朽化が進んでいた。そこで、観客にサッカーを純粋に楽しんでもらえるスタジアムをつくり、サッカーを通じて笑顔あふれる地域にしたいという目標のもと、日本で初めて寄附金（募金）によるスタジアム建設に着手した。建設に当たっては、スタジアム建設募金団体（関西経済連合会や日本サッカー協会、株式会社ガンバ大阪等で構成）を設立し、目標額の140億円（法人や個人からの寄附金、国土交通省や環境省の助成金等で構成）を超える寄附金を集めた。なお、寄附金をもとに建設したスタジアムは用地の所有者である吹田市に寄贈し、株式会社ガンバ大阪が指定管理者として入ることで、施設の維持管理・運営を実施している。

パナソニックスタジアム吹田は収容人数約4万人のスタジアムで、大多数の観客が屋根の内側に入るよう設計されており、雨にぬれることなく観戦できる環境を整備している。特徴としては、①同規模のスタジアムと比較するとピッチと観客席スタンドの距離が短い、②観客席が全て個席の快適な観戦環境、③日本最大級の2,000席を備えたVIPエリア、④環境性能の高さ、⑤最先端システムの導入、⑥地域の防災拠点としての機能整備が挙げられる。スタジアムは平成28年度から試合での利用を開始しており、平成28年度が26試合、平成29年度が30試合、今年度は8月時点で13試合実施している。なお、スタジアムではJリーグ等の国内試合だけでなく、アジアチャンピオンズリーグなどの国際試合も開催されている。スタジアム建設の効果としては、観客の増加に伴い、チケットやグッズ、飲食の売り上げも増加したことが挙げられる。その結果、収益面では約20億円の増加となっている。また、サッカーの試合だけでなく、サッカー関連のイベントとしてはパブリックビューイングやフットサル大会等の実施のほか、地域のイベントとして、フィジカルトレーニングやウォーミングアップエリアを利用したトレーニングの実施、施設内の会議室やVIPエリアを利用した就職相談会、スタジアムウェディングなども実施している。さらに、市民ふれあい事業として、吹田市の小学校4年生を対象に、元サッカー選手から将来や夢についての講話の実施や、スタジアムの防災拠点としての設備を利用した防災の授業を実施している。これらの取り組みを通し、自分の町にこのようなスタジアムがあることを知ってもらい、誇りに思ってもらうことを目的としている。